



ほとんど毎日更新中！

「食べることは「生きること」

校長 三村美延

これは、私が子育てをしている時期に学童保育所の先生から言われた言葉です。詳しい状況は忘れてしまいましたが、食欲だけは旺盛で問題行動の多い長男について、私がぐちをこぼした時のことでした。「食べることは、生命そのものなのですよ。」と学童保育所の先生は教えてくださいました。たしかに、食欲のある子からは生命のエネルギーが感じられると納得しました。それ以来、私は家庭では食事を、職場(学校)では給食指導を大切にしています。

食育基本法では、食育を「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎」と位置付けています。本校でも、学校教育目標の具現化を図るために「未来をたくましく生きる、食べることを大好きな新和っ子の育成」を目指し、様々な取組を行っています。



体験活動を取り入れた学習の充実

子どもたちは学年に応じて、校内の畑でさつま芋や小松菜を作り、一人一つのバケツでくわいを育てます。昨年度からは、ヨーロッパ野菜作りにも挑戦しています。また、近隣の田んぼでは、田植えや稲刈りを体験させてもらいます。こうして子どもたちは、食卓にのぼっている作物がどのように育っていくのか、経験として理解していきます。

さらに、地域の特産である農作物を学童期から身近におき、農業を営む地域の方から手ほどきしてもらった経験は、将来大人になったときに故郷の記憶として思い出されることと思います。

教材としての学校給食の充実

学校給食は「心身の健全な発達に資するものであり、かつ、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすもの」です(学校給食法)。

本校では平成26年に自校給食室が完成しました。それに合わせて学校栄養士が配置され、学校独自の献立を作成することができるようになりました。子どもたちが収穫した作物を給食に使用したり、地元の農家や近隣のお店から食材を仕入れたりしています。また、学校栄養士と教員が連携し、社会科や家庭科等の授業内容に合わせて給食の献立を決められるので、授業で学んだ知識を生活に結び付けることができます。学校栄養士を中心に全教職員が一丸となって「学校における食育」について教職員研修を行い、「新しい生活様式における学校給食」について取り組んだ成果でしょうか。昨年度の本校児童アンケートでは94%の児童が「食べるのが好き」と答えました。(令和2年11月)

「食育とは？」という問いに、本校の教職員は「生きる源」「心の栄養」「自己管理能力」「笑顔」等と答えています。食の基盤であるご家庭との連携をいっそう深め、新和地区を支える地域の皆様のご協力を賜りながら、食べることを大好きな新和っ子をみんなで育てていきましょう。

11月6日(土)には「食育パネルディスカッション」を公開します(日程は新和小学校 Web ページに掲載)。ご都合のつく方は、子どもたちの笑顔に会いに、是非お越しください。